長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2026 VOL.442

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



院長年頭所感
幹部職員　新年のご挨拶
年男・年女の今年の抱負

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感

『勢いとしなやかさ』

院長 高山 幸人



新年明けましておめでとうございます。

本年は干支の「午」にあたり、駿馬は力強さとスピードの象徴とされています。変化の続く医療環境の中、私たちもその勢いを借りて前進していきたいと考えております。

長崎医療センターでは、これまで「安全で質の高い医療の提供」「救急医療の最後の砦としての役割」「地域の医療機関・行政との密接な連携」「医療人・学生に魅力的な教育研修の提供」「臨床研究の推進と国際医療協力への貢献」という五つの使命を掲げ、地域の皆さまの健康と安心を支える取り組みを続けてまいりました。こうした使命は、職員一人ひとりの努力によって支えられており、心より感謝申し上げます。

2026年度からは、新たな地域医療構想が本格的に動き出します。その中で当センターは、二つの役割を担います。第一は「急性期拠点機能」で、手術や救急など高度な医療を必要とする方々をしっかり受け止め、地域全体の医療の質と安全性を高める役割です。第二は「広域な診療機能」で、離島や半島地域を含む県全体を視野に、地域医療を面として支える役割です。

これらの取り組みは当センターだけで完結するものではありません。地域の医療機関と連携し、互いの強みを活かして支え合う体制の構築が欠かせません。協働し合える関係性がますます重要になると感じております。

私たちは専門性を高めつつ、働く人が誇りを持てる環境を整え、「地域や職員から信頼される病院」であり続けたいと考えています。本年も皆さまのお力添えをいただきながら、安心できる医療を届けてまいります。

「午年」にふさわしい勢いとしなやかさをもって、健やかに発展する一年となりますよう祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

安全で質の高い医療を提供する
救急医療の最後の砦となる
地域の医療機関、行政と密接に連携する
すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する



新年のご挨拶（幹部職員）



副院長 吉田 真一郎

躍進

新しい年を迎え、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年8月の病院機能評価の受審に際しては、日頃の業務に加え、多くの準備と対応にご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げます。追加審査も含め、最終評価はまだ届いておりませんが、皆さまのご協力のおかげで、問題なく更新認定されるものと受け止めております。

さて本年は、これまで進めてきた経営改善をさらに前へと進め、持続可能な医療提供体制の確立を目指す一年にしたいと存じます。病床の整理や再編につきましても、一部で具体的な検討を開始しており、より効率的で質の高い医療体制づくりに取り組んでまいります。

また、地域の医療機関や関係機関との連携をより一層深め、地域全体で支える医療の充実を図ることも当院の重要な使命です。こうした取り組みを通じて、当院として着実な躍進につながることを願っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



副院長 黒木 保

飄風

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられたことと存じます。昨年は、当院において県内初の整形外科におけるロボティック手術システムの導入、外科・泌尿器科におけるロボット手術の活用拡大、放射線・内視鏡・血管内治療の高度化など、医療技術の進歩を強く実感した一年でした。これらの進展は、日々研鑽を積み、患者さんに寄り添い続ける職員の皆さまの努力の賜物であり、また連携してくださる近隣の医療機関の皆さまのご支援なくしては実現し得ません。改めて深く感謝申し上げます。病院運営における私の思いは、職員の方々が楽しく仕事ができて、患者さんが少しでも笑顔になれる明るい病院であることです。本年は午年です。勢いよく駆け、努力が実を結ぶ年とされます。私自身、趣味のガーデニングを通じて日々の積み重ねの大切さを実感しています。医療も同じく、一つひとつの丁寧な行動がやがて大きな成果につながります。皆さまにとって、健康で実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



臨床研究センター長 田川 努

人を育てる

「金を残すは三流、仕事を残すは二流、人を残すは一流。」、野村克也監督の名言が私は好きです。「金を残して死ぬのは下、事業を残して死ぬのは中、人（人材）を残して死ぬのが上」、明治・大正の政治家で医師でもある後藤新平の名言が元かもしれません。これまで自分は何をしてきたんだろうかと最近考えます。金？どうでしょう、借金はない。仕事？これも、うーんです。論文を書いていない。経験と手先だけで外科医をしてきました。せめて人は何人か育てることはできたのだろうかと自問自答しています。後進を育てることは古今東西、どんな職種でも大事です。私は昭和の教育しか知らないので徒弟制度も悪くないと考えています。理不尽に耐えることができるように強く育って欲しいからです。でも今は令和、誉めて育てるも実践しています。甘いなあと思いながらですが。少子高齢化、後継者不足、同じ道を志してくれた後輩、若者を育てたいと改めて思うこの頃です。本年もよろしくお願い致します。



統括診療部長 本村 秀樹

翔る

新年明けましておめでとうございます。いよいよ新しい年がはじまります。

今年はうま年ですが、さらに情熱の丙午です。馬といえばまず、競走馬です。美しく速く走るサラブレッドを連想してしまいます。しかし、馬にはいくつか種類があるようです。重たい荷物を運んでくれる大きな体を持つ重量馬、小型で小回りがきくポニーなどもあります。坂の町長崎では車が通れない小道を建設資材などの重い資材をしっかり運ぶ馬がいたのをみたことがあります。馬だからすべて速く走れるわけではありません。速く走らなくてもそれぞれ得意な分野をもっています。あらためて自分にできることは何か考えながら、一歩前に翔け出してみたいと思います。今年もご指導よろしくお願いいたします。

新年のご挨拶（幹部職員）



事務部長 村上 和明

転換

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。さて2026（令和8）年の干支は丙午（ひのえうま）です。昔から「激しい性格を持つ年」と言われているとのことですが、当院にとっても激しく良い成果があがる一年にしていきたいと思っています。

前回の丙午は1966（昭和41）年でした。その年の出生数は古くからの迷信を信じた人が多かった為か、約136万人（近年よりはるかに多いですが）と前年と比較して約46万人も減少するなど社会に不安が広がった年でした。しかし、令和の丙午は違います。当院の所在する大村市は子育てしやすい自治体ランキング2025（日経BP総合研究所）で全国１位を獲得し、人口増加へ向けた取り組みも進んでいます。この地域の前向きな流れとともに地域の中核病院としてさらに信頼される存在を目指したいと思います。

そして私自身、年男で還暦を迎える節目の年です。これまで培ってきた経験を活かし、さらに当院の発展に尽力してまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護部長 井上 範子

対話

謹んで新年のお慶びを申しあげます。新しい年が皆さまにとって幸多き一年となりますようにお祈り申し上げます。日頃より、安全、安心の医療を提供するためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、機能評価受審に伴い、システムやマニュアル、記録等はもちろんのこと、環境や今まで取り組んできた事業など、様々なことについて見直すことができました。課題もたくさんありましたが、今まで行ってきたことに対する自信も感じることができたと思っております。

「組織は人なり」という言葉があります。その『人』を大事にしたいという思いから、今年の抱負は「対話」としました。対話の積み重ねにより、コミュニケーションの質、量を高め、関係の質向上へつなげる、それが思考、行動の改善につながる。結果、職員一人ひとりが生き生きと働き続けられる職場作りにつながるのではないかと思っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男・年女の今年の抱負



磨く

看護部　満尾 いづみ

新年あけましておめでとうございます。昨年は機能評価受審をスタッフ一丸となり、無事乗り越えることができ、スタッフ個々が主体的に行動する姿を心強く感じました。

年を追うごとに、体に気を遣うことが増え、健康の有難みを感じる今日この頃。良いパフォーマンスができるよう、自分を磨き、「推し活」でリフレッシュし、充実した１年にしたいと思います。



実り

薬剤部　山本 晃大

明けましておめでとうございます。

近年は歳を重ねることに特別さを感じなくなっていましたが、年男となると一回り前の出来事に思いを馳せてしまいます。

ふと2014年の流行語を調べてみると「ダメよ～ダメダメ」、懐かしさとともに、もう12年も経つのかと月日の流れの早さに思わずぞっとします。

これからの12年は、なんとなく過ごすのではなく、実りある時間にしていきたいと思います。まずは、今年の第一歩から始めてまいります。



長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.442